

早期医療体験プログラム報告会を 開催しました

3月13日（水）、高校2年の榎本美咲さんが、校内で「早期医療体験プログラム」の報告会を行いました。

「早期医療体験プログラム」とは、順天堂大学心臓血管外科と読売教育ネットワークが連携して行う、医学部を目指す高校生対象のプログラムです。榎本さんは、2018年8月の4日間、このプログラムに参加し、現役の外科医に密着してお話をうかがったり、手術室に入って執刀医の間近で手術を見学したりしました。この報告会では、榎本さんが実際の医療現場に入って、見たこと、聞いたこと、感じたことを話してくれました。

榎本さんは、医師の人間性や仕事に対する姿勢を間近に見ることでさらに医師を尊敬する気持ちが高まったこと、手術の現場を見学して人間の生命力の強さに感動したことなどを話してくれました。その一方で、1日に4時間以上の手術を2件も3件もこなすという体力勝負の医療現場の過酷さに触れ、医師の情熱や患者に対する思いで支えられている日本の医療の現状に疑問を持ったこと、そして、医系技官となって日本の医療制度を変えたいという将来の夢を持つようになったことも話してくれました。また、医師になるには「幅広い知的好奇心と向上心」、「リーダーシップとコミュニケーション能力」、そして何よりも「情熱と『医師』という職業を愛する心」が大切であるとの考えを示してくれました。

この報告会には、医師を志望している中学3年から高校2年までの生徒が参加しました。参加生徒の感想には「医師になるということは、自分が考えていたよりもずっと覚悟がいることなのだと思えさせられました」「今回の報告会で初めて医療の本質を知ることができたように思います」「手術を行い、人を救うということがどれだけ大事なのか、またどれほど責任が重いことなのかを感じました」などとあり、医師という職業について改めて考え、志を新たにすよい機会となったようでした。

